

かほく市教育委員会

令和3年度 全国学力・学習状況調査 結果の概要



1. 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. かほく市における 前年度までの課題と改善の方向性

- ◆ 各種学力調査等の結果から、算数・数学の教科において、特に苦手とする児童生徒が多いことから、個に応じたきめ細かな指導及び基礎・基本の定着を図る必要がある。
- ◆ 令和元年度調査では、記述式の設問で県平均を下回り、無解答（空欄）率が高い傾向にあった。そこで、日々の授業において書く場を保障し、適切な評価をすることで「書く力」をつけるよう指導していく必要がある。
- ◆ 質問紙調査の結果より、読書への関心が低い傾向にあるため、学校司書を全校配置し、さらなる読書活動を推進していく。

■ 実施日

令和3年5月27日

■ 対象学年

小学校第6学年
中学校第3学年

■ 調査内容

【教科】

国語
算数・数学

【質問紙】

児童生徒質問紙
学校質問紙

■ 留意点

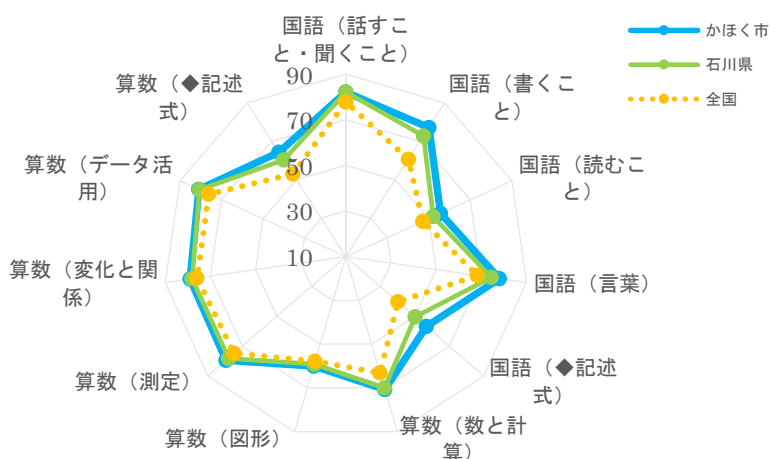
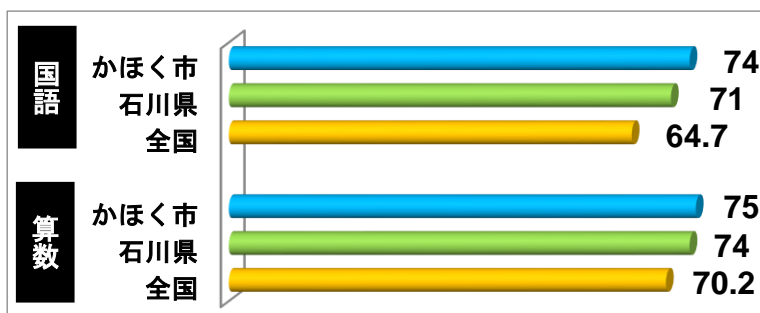
本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、また学校における教育活動の一側面であることから、教育上の効果や影響等に十分配慮して扱うこととする。

3. 教科に関する調査の結果

小学校6年

【傾向】

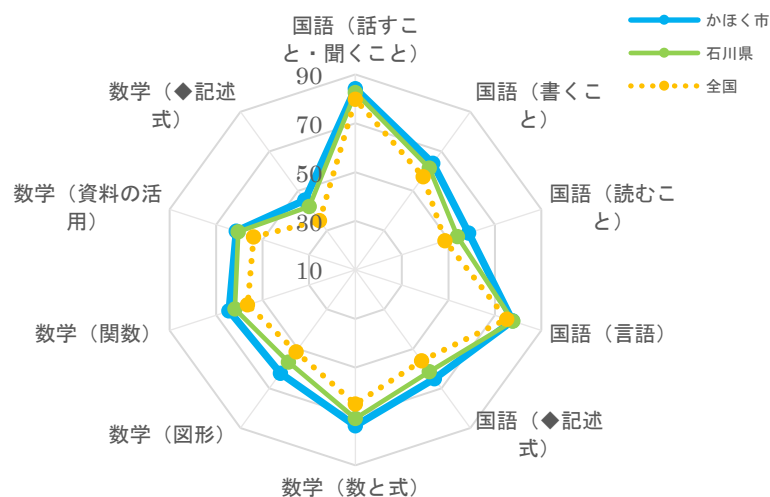
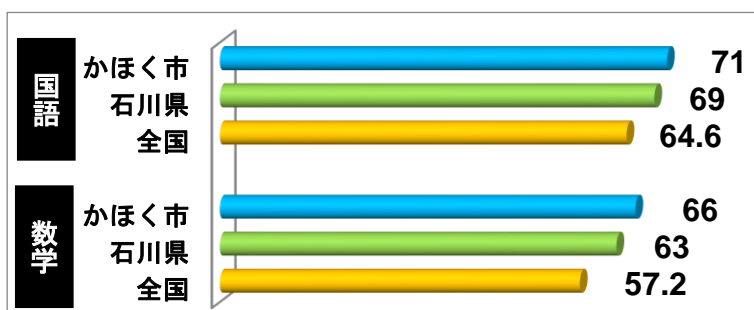
- 国語、算数ともに全国及び県の平均正答率を上回った。
- 国語、算数ともに「記述式」の正答率が全ての設問において県平均を上回った。特に算数では、「記述式」の設問4問のうち2問が無解答率0%であった。
- △ 問題別では、算数の「数と計算」領域において場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をする内容にやや課題がみられた。



中学校3年

【傾向】

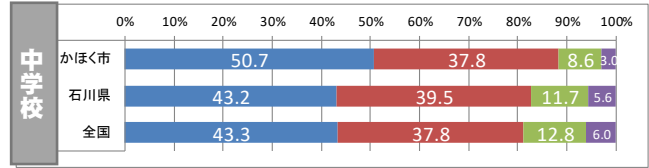
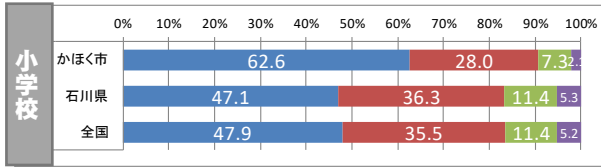
- 国語、数学ともに全国及び県の平均正答率を上回った。
- 国語、数学ともに無解答率が減少している。また「記述式」の正答率は、県平均を3%以上上回っていた。
- △ 問題別では、国語の敬語表現において、言語の知識・理解・技能が県平均を下回った。
- △ 問題別の数学では、関数領域において与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る内容にやや課題がみられた。



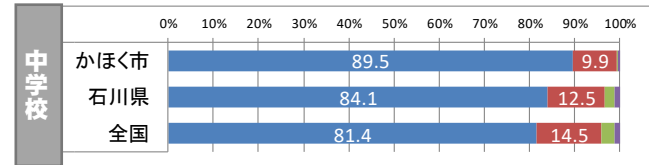
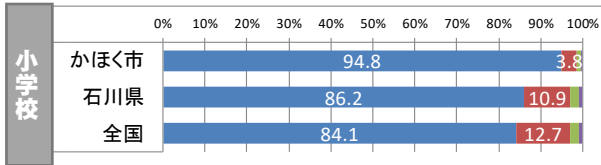
4. 児童生徒に対する質問紙調査の結果

質問 学校に行くのは楽しいと思いますか

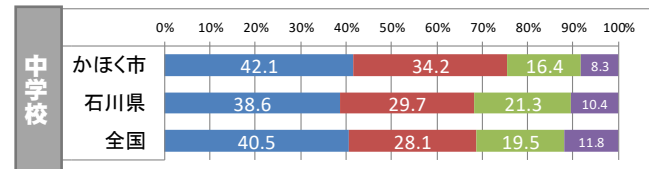
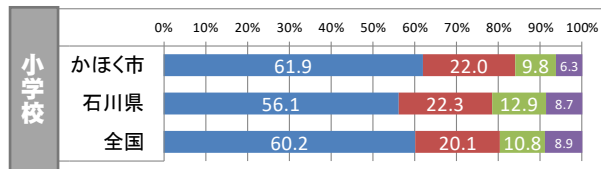
■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない



質問 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



質問 将来の夢や目標を持っていますか



【傾向】

かほく市と県全体を比較すると

- 国語及び算数・数学への関心等が高く、意欲的に取り組んでいる児童生徒が多い。
- 学校が楽しいと思ひ、授業での課題解決に向けて取り組んでいる児童生徒が多い。
- 家で計画を立てて勉強をし、その時間も多し。一方ゲームをしている時間が少ない。
- 規範意識は県平均並みとはいえ、高い割合を示している。
- 将来の夢や目標を持っている児童生徒が多い。
- △ 読書や新聞を読む時間が県平均並みとはいえ、決して多しとはいえない。



その他の質問項目から

	小学校		中学校	
	肯定的な回答の割合 (%)	県平均との差	肯定的な回答の割合 (%)	県平均との差
国語の勉強は好きですか	72.4	9.6	69.1	6.0
算数・数学の勉強は好きですか	81.8	7.3	75.0	10.2
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	86.0	7.5	72.1	5.9
自分には、よいところがあると思ひますか	83.6	8.6	78.2	2.8
普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか → 2時間未満	59.4	7.2	58.3	9.0
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (1時間以上)	78.6	10.4	72.0	-2.2
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか (30分以上)	35.7	0.2	23.4	-3.9
これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	88.8	7.1	86.5	3.3
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	92.6	7.2	90.5	4.1
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	81.5	8.2	73.7	3.5
小1、中2までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか	28.0	-10.0	28.6	-0.7

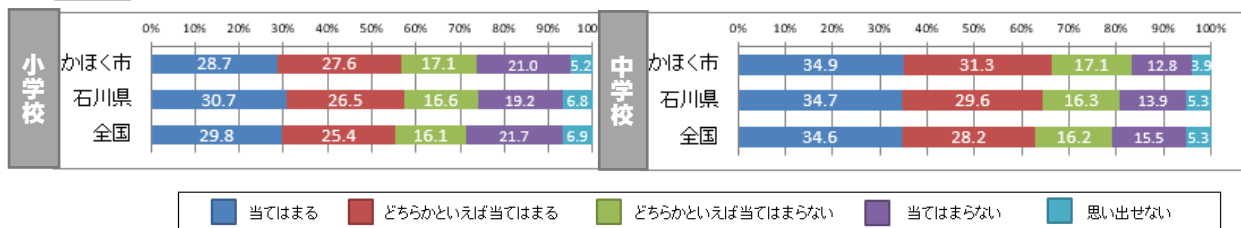
令和3年度 かほく市 学校教育の重点

- 1 小中連携した
確かな学力の育成
- 2 学校図書館を活用した
学習活動の推進と
ICTの効果的・積極的活用
- 3 いじめ・不登校への適切な
対応と幼小接続の推進
- 4 児童生徒の体力、運動
能力の向上と食育の推進
- 5 教職員の働き方改革の
徹底

5. 全体を通して

- ◆ 今年度の小6、中3ともに、無解答率の減少や「書く力」の向上がみられ、質問紙調査の結果からも「学習意欲」が例年より高く、前向きに取り組んでいることがうかがえる。さらに、「あきらめずいろいろな方法を考える」や「難しいことにも失敗を恐れず挑戦する」といった質問において、肯定的な回答をする児童生徒の平均正答率が高いという傾向がみられた。
- ◆ 昨年度は、コロナ禍において学習に不安を感じる児童生徒が5割を超えていた。しかし、各学校における休校中のきめ細かな家庭学習支援や学校再開後の指導の重点化により、学習の定着状況に大きな影響はみられなかった。

質問 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか



6. 今年度の課題と改善の方向性

- ◆ 今年度の学力調査において、平均正答率は全国や県を上回っていたものの、学習内容の定着がまだ十分ではない児童生徒が見られるため、これからもきめ細かな指導が一層求められる。また、中学校においては無解答率や記述式の設問にも引き続き改善を図る必要がある。そこで、各学校の課題解決に向けた取組とともに、以下の3点を学力向上の重点として取り組むこととする。

- ◇ 他校の同一教科担当者と連携して指導力向上を図る
- ◇ 授業後半を充実させ、学習内容を確実に定着させる
- ◇ 検証問題を先に作成し、指導と評価の一体化を図る

- ◆ 質問紙調査の結果より、読書への関心、ICTの活用がやや低い傾向にある。読書については、学校司書やPTAと連携し、家庭を巻き込んだ読書の質の高まりを目指す。ICTの活用については、今年度からスタートさせた小中連携ICT教育推進事業により、指定校を中心とした積極的活用を進める。

